

タバココナジラミで媒介される ウリ類退緑黄化ウイルスの簡易な診断法

平成18～20年度 農林水産省 新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業委託事業
「果菜類の新規コナジラミ(バイオタイプQ)等防除技術の開発」

- ▶ メロンとキュウリの退緑黄化病や、スイカの退緑えそ病の発生が拡大しています。
- ▶ ウリ類退緑黄化ウイルス (CCYV) という新種ウイルスが病原で、難防除微小害虫のタバココナジラミが媒介する病害です。

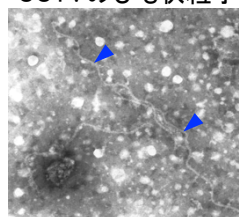


- ▶ そこで、CCYVの感染を迅速・簡便に診断できる検定試薬を開発しました。

メロンの退緑黄化病

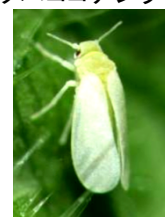


CCYVのひも状粒子



長さ およそ0.001 mm

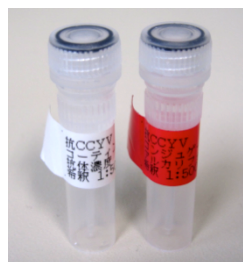
媒介虫の
タバココナジラミ



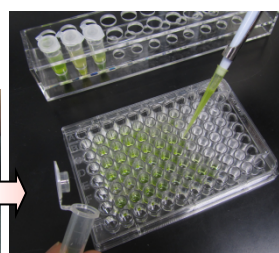
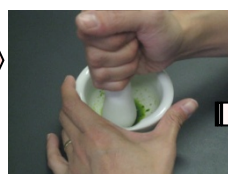
体長 約0.8 mm

CCYV検定試薬

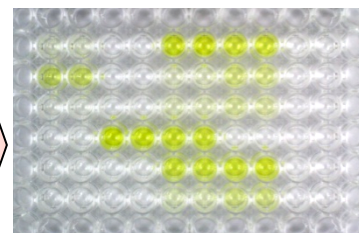
(社)日本植物防疫協会との共同開発



1検体あたり21円と
低価格です。



サンプル葉をすりつぶしてマイクロプレートに添加し、試薬と反応させます。



溶液が黄色に発色したサンプルは、CCYV陽性と判定します。

この方法は、低コストで簡便に診断でき、
多数の検体を扱うのに優れた技術です(DAS-ELISA法)。

CCYVを迅速に検出・診断し、ウリ類の
退緑黄化病・退緑えそ病の早期防除と蔓延防止に貢献します。



農研機構

中央農業総合研究センター病害虫研究領域